

高等学校 家庭科

家庭基礎（1年）単元名:『大人』として自立した経済生活を営むこととは

府立貝塚高等学校 授業者 指導教諭 野田 豊美

I 単元を通して育成をめざす資質・能力

【めざす生徒の学ぶ姿】

「大人」になる時期が迫っていることを自覚し、自らの消費生活に関する様々な事象を見つめ直し、それらと自分との関係を問い続ける。自立した消費者として主体的に意思決定し、消費者市民社会の担い手として責任ある行動ができる。

【学習指導要領(平成30年告示)との関連】

「家庭基礎」 内容C 持続可能な消費生活・環境 (1)生活における経済の計画アイ、(2)消費行動と意思決定アイ

知識及び技能	家計の構造、家計管理、消費生活の現状と課題、消費行動における意思決定の重要性、消費者保護の仕組みなど消費生活を主体的に営むために必要な基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付ける。
思考力、判断力、表現力等	生活における経済の管理や計画の重要性、自立した消費者として、生活情報を活用し、適切な意思決定に基づいて行動することについて、問題を見いだして課題を設定し、様々な解決方法を考え、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして、生涯を見通して課題を解決する力を身に付ける。
学びに向かう力、人間性等	様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、生活における経済の管理や計画の重要性、自立した消費者として生活情報を活用し、適切な意思決定に基づいて行動することについて、課題の解決に向けて主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、自分や家庭、地域の生活の充実向上をめざして実践しようとする。

II 単元計画(資質・能力育成のプロセス) 全9時間

時	めざす生徒の姿	学習活動・学習内容	教師の支援・指導 (★深い学びを生み出す工夫)
1	『大人』になると、自由(権利)も義務も増えるんだな	○成年年齢引下げに伴う生活事象の変化を総合的に捉え、学習の見直しをもつ活動 ・18歳で「大人」とみなされるようになると、日常生活の中で何が変化するかを知る。 成年年齢に達すると、 ・責任は自分で負わなければならない ・自分一人で契約ができる ・ 意思決定力を身に付ける 必要がある	○様々な生活事象を例示し、何ができるようになるのか、変わらないものは何か、それは何故かを問いかけ、成年とみなされる年齢が迫っていることを自覚させる。 ★意思決定力を鍛えるための 題材を貫く視点(快適、安心・安全で持続可能な社会の構築) を明示する。 「大人」として自立した経済生活を営むためには、どのようなことが大切になるのだろう。
2	「成年になると法律上の扱いが変わるんだな」	○消費行動における意思決定や契約の重要性に気付く活動 ・自分は毎日多様な契約を行っている ・契約は法律上の責任(権利と義務)を伴う	○「契約」の基本、成年になると「未成年者取消権」がなくなることを理解させる。 ★高校生に身近な消費場面を示し、 自分の消費行動と結び付けて 理解させる。
3	「契約内容をよく確認し」	○消費者保護の仕組みを理解する活動 ・若者に多い契約トラブルの現状と課題 ・安全で豊かな消費生活を送るための制度	○若者に多い契約トラブルを例示し、自分の生活体験と関連づけて、法の視点から事例の背景や問題点に気付かせる。

	ていなかったな」	(消費者契約法、クーリングオフ) ・消費者として注意すべき点は何か	★契約を解除できる場合とできない場合を 比較し 、なぜそうなるのか、具体的に理解できるようにする。
4	「給料全てを自由には使えないんだ!」	○社会人の収入と支出を理解する活動 ・「給与明細」から、もらえるお金と収めるお金を理解する。 ・ライフイベントや不可避リスクへの対応など、もしもに備えた準備の必要性を理解する。	○入社5年めの社会人の給与と明細を用いて1か月の支出をシミュレーションし、家計の構造や収支バランスの重要性について理解できるようにする。 ★ 日常生活のジレンマと向き合い 、様々な解決策があることに気付かせる。
5	「クレジットは信用に基づく契約。代金後払いになるんや」	○クレジットカードの仕組みや利用方法を理解し、使用時の注意点を考える活動 ・ロールプレイングを通じて、三者間契約について理解する。多重債務が起こる原因やクレジットカード使用の注意点を考える。	○様々なカードを提示し、特徴や支払い方法の違いを理解させる。 ★キャッシュレス決済の メリット・デメリット を知り、計画性のある使い方について考えさせる。
7	「一人で悩む前に、まず相談しよう」	○若者に多い消費者トラブル、相談事例の解決策を考える活動(グループで事例研究) ・事例の問題点を指摘し、解決策とこうなる前に何をしないといけなかったかを考える。	○9つの事例について、トラブル発生後の解決に向けた適切な対応だけでなく、被害に合わないための考え方や行動を理解する。 契約・家計・経済の仕組みを思い出そう。被害が起こる背景(社会構造、考え方)を分析しよう。トラブルに合わないための原理・原則は何だろう。 ★友だちの様々な意見を聞くことで、被害を未然防止するための 共通する考え方やポイント に気付かせる。
8		○消費者トラブルの問題解決に取り組む活動(個人) ・事例の問題点を分析し、具体的な解決策・対応策や行動(どのように断れたか)を考える。	○自立した消費者になるために、大切だと思う事柄について考え、 単元で学んだ知識・技能を再構成 させる。 将来、快適、安心・安全で持続可能な経済生活を営むために、どのようなことができるようになりたいか。18歳になるまでの2年間に 取り組む、消費生活の目標を立てよう 。 ★自分だけでなく 周囲も安心・安全な生活を送ることが できるような行動や責任にも気付かせる。
9	「〇〇を意識して行動しよう」「公的機関への相談・情報提供がみんなを守るのか」		

III 深い学びを実現するための指導の工夫

◆「見通す・振り返る」学習活動の充実

第1時に消費生活を見つめる視点として見方・考え方(「快適」「安心・安全」「持続可能」)を明示し、1時間ごとに学習で考えさせたい視点について振り返りを重ね、生徒が自分の考えの深まりに気付けるようにしました。何のためにこの学習をするのか、どんな力を身に付けるのかがわかる「見直し」と、本時の学習から得た視点を基に実生活につなげて考える「振り返り」を行いました。

◆生活や社会につながる課題設定の工夫

若者に多い消費者被害の事例研究や家計管理のシミュレーションなど、18歳で成人になる生徒が、近い未来の自分を想定しながら「私と関係がある」「役に立ちそうだ」「できるようになりたい」と自分事として意欲をもって取り組めるような、必然性のある学習課題を設定し、生徒が「自分は消費者である」ことを自覚し、「自立した消費者」とはどのような消費者なのか、自分は自立した消費者かを問い続け、実生活や社会の中から問いや疑問を見いだしながら学習に向かうことをねらいました。

◆生活や社会の中で生きて働く知識・技能の再構築

第2～8時は、実践的・体験的な学習を繰り返して知識・技能を用いた推論や論証を行いながら、消費生活に関する正しい情報や知識・技能を再構築させ、学びの深まりにつなげました。第9時は、消費者トラブルの実例を示し、被害にあわないための考え方や行動など自分の考えを述べさせることで、概念理解の深さや知識・技能を総合的に活用する力を質的に評価しました。

IV 生徒はどのような学びを実現したか

○今の自分は自立した消費者かを問い、そうなるためにはどうすればよいかを考え、行動しようとする

本実践では、生徒が自分は消費者であること・18歳で成人となることを自覚し、自立した消費者とはどのような消費者なのか、また、よりよい社会の実現に向けた消費者の役割は何かを考えさせることを目的とした。

単元当初の生徒は、18歳（成人）になると生活の何がかわるのか特段意識したことがなく、消費者であることに無自覚だった。しかし、第2～6時に契約、家計の収支と管理、クレジットカードの仕組み等について、具体的な事例を通して実践的・体験的に学ぶうちに、**自分が快適で安心・安全と感じる生活とはどのようなものか、その暮らしは持続可能か**と自らのライフスタイルや価値観を問い直しはじめ、「今までよく知らなかった」「ずっと気になっていたことを知れて良かった」、「『大人』になるためには準備が必要」、「今日の授業は将来につながる」と強く実感するようになった。

第7・8時の事例研究（グループ活動）では、自分たちの経験と照らし合わせて身近な問題として取り組み、「トラブルの解決には様々な考え方があがるが、悪質なトラブルを未然防止するには共通の要素がある」という結論に辿り着いた。こうして、第9時には各自が消費者トラブルにあった友だちにアドバイスできるような知識・スキルと視点を持ち、自立した消費者になるための行動目標を立てた。その記述からは、自分の視野の狭さに気付くつも自立した消費者になりたいと強く思う、等身大の姿が見てとれる。

ポイント①

第1時

☆18歳で成人とみなされると、日常生活の中で様々な「責任」が生じることを自覚し、学習への動機を持つ

「『大人』になると、
どんな責任が生じるだろう？」
～振り返りシートの生徒記述から～

「たくさんの契約をしたり、自分のお金の管理をしたり、全て自分の責任になる。全ての物事を慎重にしないといけない。」

「自分で決めたことは自分で行う。自分が行ったこと全てに責任が伴う。社会の一員として考えて行動する。決めたことの失敗も。相手を敬う。生きていることすべて…？」

自分でできることが増えるのはいいけど、その分、**困ることが増える**なあ。

高校を卒業したらすぐに「大人」になるんだと思うと、**なんか面倒くさそう**。

今はまだ、**もうちょっと子どもでいたい**なって思ってしまう。



「大人」になると、**決め事は自分で決めなければならないし、その責任も負わなければならない**。

責任を負わなければならないから、「大人」にはなりたくないな。

自分の意思で決めないと**いけないことが多くなるのは大変**！

「大人」までもうすぐ。**心構えも重要**では…。

無知のまま、社会に出ると危険やん。

授業者はココを見る！

題材（単元）を貫くテーマに対して、今の自分の消費生活や消費行動とのズレや葛藤、対立を感じているか？
18歳で成年に達すると「責任は自分で負わなければならない、自分一人で契約ができる、意思決定力を身に付ける必要がある」ということを知り、消費生活において今の自分には「知らないこと・できていないことがある」とことを認識しているかどうかを確認する。

ポイント②

第7・8時

☆具体的な事例を通じて、自立した消費者になるために必要な知識やスキルの習得・活用を繰り返して問題解決を行い、知識やスキルを関連付けて再構成し、「借り物から自分のものに」していく

友人から消費者トラブルの相談を受けました。
あなたたちなら、どうアドバイスしますか？

- ①事例の問題点は何か
- ②解決策、対応策
- ③こうなる前にできる（できた）ことをグループで考え、提案しよう。



SNSで知り合った人に、**簡単について行っていいのかな**。

長時間の監禁的・拘束的な勧誘行為が目立つね。

冷静に考えると、**これっておかしくない？** だってさあ…。

9つの問題はそれぞれ違っても、『相談』という言葉がたかさんできた。こうなる前にできたことが全部の事例にあったのだから、それをする努力をしようと思う。

いらないものは『いらない』としっかりと断る。どうしたらいいのかわかると判断してから行動しようと思った。リポリング払いがよくわからなかったな。



一人で抱え込まずに相談する。そんな勇気が大切。そして、巻き込まれないための知識を蓄えておくことも大切。お金を振り込む。知らない人についていく。普通に考えたらやってはいけないよね。すぐ気づくことが大切なんじゃないかと思った。

授業者はココを見る！

批判的な思考を働かせて事例を分析・検討しているか？

事例の根っこを見ることができているかどうかを確認する。

—「誰が」「どこで」「何を」「どうして」「どうしたいのか」

—なぜトラブルになったのか、それを防ぐにはどうしたらよいか

【9つの消費者トラブルに共通する解決策】

- ① 仕組みがよくわからない時はやめておく慎重さ
- ② なんかに変だ感じるアンテナ
- ③ 自分の意思を対等・率直に相手に伝える力
- ④ 困った時に相談する相手

ポイント③

第9時

☆学習を振り返り、学んだ知識やスキルの有効性と限界に気付きながら、これからの自分の生活や将来につなげて行動しようとする

「自立した消費者として『意思決定力』をつけるために、18歳になるまでにできること」～振り返りシートの生徒記述から～

『断る勇気』『自分の意見を持つ』『正しい情報を知る』『人の話をきちんと聞く』『相談できる友だちをたくさん作る』

「平日頃から自分の好きなことは『好き』と、欲しいものは『欲しい』と相手に伝えられることが一番いいと思いました。親にあれこれと言われるだけでなく、自分の意思をしっかりと術をこれから身に付けたい。」
「友だちなどに誘われたりお願いされたりした時に、**したくなかったり嫌やと思うことはきちんと断ることが大切**だと思った。友だちとどこか行く時とかみんなで考えたりする時、**自分の意見をもってそれを伝えるように**していこうと思う。」

「もっと法律やお金の仕組みについて勉強しておく。生活情報を集めて、いろいろな中から選択し、活用できるように情報を見極める力をつける。自分で判断する力を付けたい。」
「ネット世代やから、何か困ったときに友だちや親、本とかよりもネットを見て決めがちやけど、**ネットの情報に流されやんと他にも調べることが必要**やと思う。」

「正しい情報をたくさん知っておく。自分に自信をもつ。自分を信じる。」
「じっくり本当に必要か考える。自分で考えてもわからない時は、調べる。調べても本当にわからない時は、親や消費生活センターに相談する。」
「もしも何かトラブルで困った時は、自分一人で悩まずに親や消費生活センターに相談する。相談したり情報を伝えたりすることが、同じトラブルが起こることを防ぐことになる。」



授業者はココを見る！

自身の消費生活や消費行動を見つめ、丁寧に自分自身のことや自らの暮らしを問い直しているか？
本単元で学んだ様々な事柄と自分の消費生活を照らし合わせ、生活の課題を発見し、個々の課題意識のもとに多様な解決策・改善策を創出し、よりよい生活の実現に向けて、生活を工夫・創造し、実践しようとしているかを確認する。

V 実践を終えて

授業者より

18歳で成人になることから、高校生の消費者トラブルが増えることが懸念されている。それに対応するには、生徒自らが自分のお金の使い方やモノやサービスの購入の仕方に向き合い自分の問題として考えること、また自分のことだけでなく、どう行動をとれば社会に貢献できるのかを考えることが重要となる。
全9時間中、7・8時間めに至るまでの助走が長くかかってしまった。9つの事例から生徒自身が消費生活における「原理・原則」となる共通項を導き出し一般化した。今回はそれらを活用して批判的に思考する学習に十分な時間をかけることができなかった。「どうしたら被害にあわないか」だけでなく「どういう消費行動をとれば社会に貢献できるか」を考えることのできる生徒の育成をめざして、今後より授業を工夫していきたい。第9時に取り組んだ「意思決定力をつけるために、18歳になるまでにできること」については、生徒が意識して取り組み続けられるように、学年末に自己評価する場面などを設けたい。